

町民の声内容【8月13日】

【タイトル】

ジェンダー平等と職場のおしゃれについて（意見・要望）

【コメント】

- 貴重なお時間をいただき、ありがとうございます。

多くの職場で、男性の茶髪（おしゃれ）にはハードルが高いと感じます。一方で女性は、身だしなみにシビアな公務員や医療従事者、金融や保険会社の社員でも染めている人をよく見かけます。染めた髪は「光加減が目立つ」こともあります。茶髪に対するハードルの高さは男女で異ならないだろうか？

- 「自分のため」に行く《おしゃれ》と、「他人のため」に行く《身だしなみ》は混同されやすいと思います。おしゃれは相手も共感するとは限らない。例えばタトゥーや腰パンを嫌悪する人は多いです。茶髪は男女とも個人的な《おしゃれ》のための行為ですが、以前は社会人の《身だしなみ》として男女を問わずNGが普通でした。今も就活では黒髪にする男女は多く、茶髪に「マイナスの印象を受ける人」はいると思います。

- そして近年、「ジェンダー平等」という言葉をよく耳にします。東京五輪・パラ組織委員会の橋本会長もジェンダー平等な大会を口にしていました。国連でもSDGs（持続可能な開発目標）の項目に掲げています。社会的、文化的に形成された性別を《ジェンダー》といい、男女共同参画社会は「ジェンダー平等」な社会です。「女性はおしゃれするもの」「男性はちゃらちゃらするな」といった《ジェンダーバイアス》があり、茶髪へのハードルの高さが男女で異なっているのではないのでしょうか？

- 時代とともにファッションやおしゃれは変化しますが、『いつの時代でも男女は平等』だと思います。以前は「男性は仕事、女性は家事・育児」が当然でしたが、今では働く女性は《男性と同じ待遇》を求めています。「職場のおしゃれ・身だしなみ」もジェンダー平等の視点から見てほしいのです。

お手数ですが、男女共同参画の推進や啓発、職員研修などの際に、継続して注目していただきたいと思います。特に行政、教育、医療、福祉、客商売などに携わる人は「官民を問わず」考えてほしい。宜しくお願い致します。